

# 教 師 ノ ー ト

日付 2014年 7月 6日

単元 モーセ・2

テーマ 大切なことを教えてくださる神さま

タイトル 十戒

テキスト 出エジプト記19:1-20:17

参照箇所

暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)

レビ22:31 or ヨハネ14:15

AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)

[小下3巻1題9課](#)

## □導入

交通規則はなぜあるのでしょうか？おまわりさんは、意地悪するために、みんなを赤信号で待たせるのでしょうか？もちろん違います。事故にあわないように、ケガをしないように、みんなのために規則をつくってくれているのですね。今日は神さまが与えてくださった10の規則についてのお話です。

## □ポイント1 神さまは、十戒を告げる前に、準備をされました(19:1-15)

イスラエルの民が、旅の途中、シナイ山のふもとの荒野でテントを張って生活していたときのことで、山の上で、神さまはモーセに言われました「あなたがたは、私がエジプトで行なったこと、イスラエルの民を守り導いたことを、その目で見た(だから私が全能の神、愛と真実に満ちた神であることは充分わかっているだろう)。もし、あなたがたが私との約束を守るなら、あなたがたは全世界の中で私の宝となる(どうですか、それができますか?)。」モーセがそれをみんなに伝えると、イスラエルの民は、「神さまの言うことを全部行ないます」と言いました。すると、神さまは言われました。「3日目(十戒を告げる日)に、民に直接語りかけます。その日のために用意をしなさい。」その用意とは、身も心も聖めることです。服を洗うことによって、外側だけでなく、内側もキレイになるように祈って備えるのです。このように、罪(世のもの)と離れて、神さまのために特別に聖く分け備えられることを、聖別といいます。

☞ 第3の月の新月の日:エジプトを出ておよそ50日目と考えられます。すなわち、過越から50日目ですので、新約ではペンテコステの日です。旧約の十戒が与えられた日と、新約の聖霊(新しい律法)が下った日は、予表関係にあると考えられています。

☞ わしの翼=わしは、強く、大きい翼で、速く飛ぶだけでなく、ひなをやさしく守り育てます。

☞ 契約の民であるイスラエル人に言われていることは、クリスチャンに当てはめることができます。「宝」は、多くのコレクションの中でも、特別に大切な秘蔵品のようなイメージがある言葉。全人類の中で、イスラエルの民は特に大切な役割をします。「祭司の王国」とは、特別に神に仕える役割をする国民になるということです。「聖なる国民」とは、他のものとは分け備えられ、模範となる国民のことです。

## □ポイント2 神さまは10の戒めを語られました(19:16-20:17)

3日目の朝になると、シナイ山の上に稲妻と雷鳴と濃い雲が現れ、角笛の大きな音が鳴り響きました。主が火の中にあって、山の上に降りて来られたので、シナイ山は煙で覆われ、山全体が激しく震えたと書いてあります。そして、神さまは10の教えを、イスラエルの民に直接語って下さいました。

⑤ 十戒のはじめの4つは、神さまと私たちの関係についての教えでした。

- 1) わたしのほかに、ほかの神々があってはならない。エジプトからイスラエル人を救い出してくださった、ただひとりの主なる神さまだけを信じなさいということです。他の神は一つとしてイスラエル人にはあってはなりません。神さまだけを愛し、他のものは入れない、強く特別な関係を大切にしましょう。
- 2) 偶像を造ってはならない。それらを拜んではならない。それらに仕えてはならない。自分のために像を造ってはいけません。それを礼拝してはいけません。神さまは創造主ですから、造られた物(被造物)を神さまにするのはおかしいですね。ですから、目に見えない主なる神さまを、目に見える像にすることもしてはいけません。これを守る人は、恵みが注がれます(申命記7:9、エゼキエル14:3)。
- 3) 主の御名を、みだりに唱えてはならない。神さまのお名前を大切にしましょう。神さまの名前はヤハウエと知られていました。大切な神さまのお名前を、考えなしに、やたらと口に出して、軽々しく扱ったり、汚すようなことはやめましょう。
- 4) 安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ。天地創造の時、主は第7日目を祝福し休まれました。私たちも、その日を、賛美・感謝・礼拝をささげる安息日として守りましょう。これは、「主が命じられた」ことです(申命記5:12)。

⑥ 十戒の残りの6つは、人と人との関係についての教えでした。

- 5) あなたの父と母を敬え。お父さんお母さんを大切に、従いましょう。そうすれば、あなたは長生きできると書いてあります。
- 6) 殺してはならない。神さまから与えられた命はみんな大切です。人を殺してはいけないのは当たり前ですが、世の中には、自分さえよければ人の命なんてどうでもいいという恐ろしい考えを持つ人もいます。どんな理由があろうと、絶対に人の命を奪ってはいけません。
- 7) 姦淫してはならない。結婚を大切にしましょう。結婚相手だけを一生愛し続けましょう(離婚家庭や両親の結婚前に生まれたお友だちには、配慮が必要です。姦淫はもちろん罪ですが、私たちも他の罪を犯して赦されたのだから、教会のだれも離婚を裁くことはできないことなど、丁寧に伝えましょう。また、高学年のお友だちには、婚前の肉体関係は罪であることをしっかり教えましょう)。
- 8) 盗んではならない。人の物やお店の物、落とし物も、勝手に自分の物にしてはいけません。
- 9) 偽りの証言をしてはならない。うそをついてはいけません。どんなに自分にとって都合の悪いことでも、真実を正直に話しましょう。相手が正直にあやまってくれたときは、快く赦しましょう。
- 10) 隣人の家を欲しがってはならない。心の中で、人の物を欲張って欲しがってはいけないという意味です(隣の家を盗まなければいいという話ではありません)。ねたみや貪欲の心が、殺人・強盗・姦淫などの原因となります。欲しいものがあつたら、神さまにお願いしましょう。

□ 結論 神さまはイスラエルの民に大切な10の戒めを与えられました

□ 適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

喜んで、十戒を守りましょう！ 神さまを愛するなら、神さまの言うことを守りましょう！

神さまは私たちを愛しているからこそ、十戒を与えてくださいました。私たちを幸せにするための、みんなが守るべき基準を与えてくださったのです。みんなを苦しめるためではありません(交通ルールも同様です)。みんなの家族やお友だちが、十戒をやぶって、殺したり、盗んだりしていたらどうなりますか？逆に、みんなが十戒を守っていたら、仲良く助け合って、幸せに暮らせますね。

愛する神さまのことを、喜んで守りましょう。みなさんは、神さまを愛していますか？愛している人の言うことを無視して、相手のイヤがることをしたいと思うのでしょうか？律法を守ることは、神さまを愛し、となり人を愛することです。イエスさまも『心を尽くし、思いを尽くし、力を尽くし、知性を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』また『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』という教えが最も大切だといわれました(ルカ10:27)。自分が律法を守っているからといって、いばったり、まもれない人を裁いてはいけません。イエスさまは、そのような律法学者を注意されました。律法は、良い子になって、良い行いをして、救われるためにするものではありません。また神さまは律法を守れる人だけを愛して下さるのではなく、どんな罪人でも愛して下さるお方です。

十戒を守るためには、自分のチカラでガンバるのではなく、聖霊さまに助けをもらうことが大切です(ガラテヤ5:16-18)。喜んで十戒を守れるように、聖霊さまの助けを求めて祈りましょう。